

## 『ゆずり葉』ロシア語吹き替え版放映会 報告

JICA 青年海外協力隊 25 年度 2 次隊派遣 齊藤愛里 (キルギス派遣 青少年活動)

2016 年 1 月 23 日土曜日、中央アジアの国、キルギスの首都、ビシュケクの小さな図書館には『ゆずり葉』のロシア語吹き替え版の放映会のために 40 名もの人々が所狭しと集まりました。

プロジェクト総括を務めた報告者である齊藤は、ビシュケクにある視覚障がい者の社会的自立を支援するための NGO に配属されており、日々、目の当たりにするキルギスの一般の人たちが持つ障がい者に対する偏見に戸惑いを感じ、少しでも減らしたいと思いながら、JICA 青年海外協力隊として活動していました。そこで、2011 年に元 JICA シニアボランティアの植草たか子さんが『ゆずり葉』ロシア語字幕版を製作し、数年経った今、より多くの人に観てもらい、障がい者についての啓発を目標として掲げ、2015 年 6 月より、ロシア語吹き替え版製作プロジェクトに挑みました。

**【プロジェクト説明】**キルギス日本人材開発センターの後援の下、キルギスの現地のボランティア 25 名と共に、オーディション、練習、録音、編集作業をしました。「日本語を勉強している」「日本が好き」という日本ファンから、「声優になりたい」「役者を目指している」という志を持った人たち、「友達に誘われて、楽しそうと思って」と様々なところで引っかかるものがあり、集まった声優ボランティアたち。台詞を読み込むことで、感情移入をする。集中的に一緒に取り組んだ夏の 3 ヶ月で、



練習風景

現地のボランティアたちは、日本語の「ありがとう」「こんにちは」「好き」などの簡単な手話を覚えてしまい、他の人の役の台詞も覚えてしまうほどでした。

映像を見ながら練習をしていたので、キルギスにはないお辞儀などの日本の習慣も、彼らの目には興味深く映ったようです。今回のプロジェクトに参加したことがきっかけで、声優ボランティアたちからは「障がい者について深く考えるようになった」と当初のプロジェクトの目的を叶えられたものと、「日本について興味を持った」と元々は期待していなかった反応もありました。

**【放映会】**当日は子供から大人まで幅広い年齢層が集まりました。ここに集まった誰か 1 人でも、映画を観たことで障がい者に対する考えが少しでも変われば、ありがたいと思いつつながら、私は会場後方から放映会を見守りました。まさに「笑いあり、涙あり」という言葉がぴったりで、最後のシーンではほぼ全ての来場者が泣いていました。ビシュケク市内の教育関係者も来ていて、「是非我が校でも放映会をしたい！」という嬉しいお声掛けも何件もありました。



放映会の様子

今回は、ビシュケク市内の小さな図書館で放映会となりましたが、観る者の心を動かせることができたと確信しております。会場から「このような素晴らしい映画をより多くの子供たちに見せたい。キルギスの田舎の子供たちには、ロシア語より、キルギス語の方がいい」という意見もあり、後日、「実際にプロジェクトができないか」と打診がありました。そこで今度は『ゆずり葉』キルギス語吹き替え版製作に向けて動き出したところです。



放映会后、プロジェクト説明と御礼（写真右、報告者）

今回のプロジェクトを承諾して下さった全日本ろうあ連盟様を始め、練習・録音場所を提供して下さったキルギス日本人材開発センター様、様々な面で助言・協力して下さった元シニアボランティアの植草たか子様、松田信治様、ビシュケク人文大学の氏原名美先生には心より感謝を申し上げます。また、純粋に楽しいという気持ちで参加してくれた、キルギスの現地の声優ボランティアたちにも、ラフマツ、スパシーバ（順にキルギス語、ロシア語で「ありがとう」と改めて伝えたいです。

小さな一歩が次に着実につながることを祈って。